

令和7年度新琴似中学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：32002

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<p>◇本校の生徒アンケートから、1学期、昨年度と比べて、肯定的な回答数が上昇している。ここ数年で徐々に上昇していることから、授業や日常の中で計画を立てることが身に付いてきていると考えられる。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査の生徒質問の結果から、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」生徒が多いことが明らかになった。</p>	<p>◇本校の生徒アンケートから、「学習のときに計画を立てたり、目標をもったりするなど、見通しをもって学習に取り組んでいる。」については、67%の生徒が肯定的に回答しており、前年よりもわずかではあるが、上昇している。その一方で保護者アンケートの質問では肯定的な回答が52%と家庭学習には生かされておらずと捉えられる。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査の生徒質問の結果から、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習つなげることができている」生徒が10%ほど上昇し、北海道・全国との差も縮まったが、まだ全国平均と比べると4%ほど低い。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇本校の生徒アンケートから、「学校や学級で自分や周りの良さを認めあうことができている」生徒がこの5年間9割程度いることが明らかになった。授業や道徳、学校行事などを通じて、話し合う活動が充実していることが他者への・他者からの承認の高まりにつながっていると考えられる。また、全国学力・学習状況調査の「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問では、肯定的な回答が北海道・全国を上回っている。引き続き、互いを認めあうような日常的な活動や価値付けが重要となる。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

学びの見通しを明確にもって自ら学びに向かう能力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	<p>◇イントロダクションの充実 →課題の明確化とその課題を解決することでどのような能力が身に付くのかを具体化する →生徒が能動的に課題を考えられるような工夫</p> <p>◇リフレクションの活用 →自分の課題をリフレクションで明らかにし、それを具体的にどのように解決するか、どのように次に生かしていくかを次のイントロダクションに生かす取組の充実</p> 	<p>◇考え、議論する道徳の実施と充実 →ローテーション道徳を実施し、教員が1つの資料を深く読み取ることができるようにすることで、授業の充実を図る</p> <p>◇生徒支援部通信の活用 →通信を通じて行動の価値観の醸成を図る</p> <p>◇協働探究の充実 →教科による協働探究の活動の充実を図ることで、どの授業でもどのクラスでも「話し合う・学び合う」環境を確立する</p> 

〈本プログラムの実行に向けて〉

